

「まちかど研究室」の取り組みについて

新潟産業大学 文化経済学科 3年 渡辺 雄大
 新潟工科大学 情報電子工学科 3年 大山 達也
 指導教員 新潟産業大学 権田 恭子
 新潟工科大学 長 聡子

0. 今年度のまちかど研究室の活動

5年目となる2017年度の「まちかど研究室(以下、まち研)」は、昨年度に引き続き以下3つの事業を柱に、両大学の学生、学友会、ゼミ等が、大学のもつ専門性や若者らしい感性やアイデアを発揮しながら、中心市街地や柏崎の活性化に寄与すべく、様々なプロジェクトに取り組みました。

- ① 両大学学友会連携イベント
- ② ゼミ・団体によるプロジェクト
- ③ 市民向け講座

1. 両大学学友会連携イベント

両大学の学友会が連携して、子どもたちを対象とした「スタンプラリー&オリエンテーリング@商店街」を11月26日に開催しました。商店街やまちなかに人が集まるだけでなく、店舗や施設に実際に足を運ぶことにより、今まで知らなかった店舗や施設の魅力を知ってもらうことを目的に企画しました。子どもたちにゲーム感覚で商店街の各店舗や史跡などを探検してもらいたいというコンセプトの下、商店街の60店に協力いただき、店内や店先でクイズを解きスタンプを集めるというルールを盛り込みました。当日は天候に



も恵まれ、総勢51人の小学生が商店街を駆け回る姿は、まちなかに普段とは違った活気を与えてくれました。



2. ゼミ・団体によるプロジェクト

両大学の7つのゼミや団体がそれぞれの専門や関心に沿って、商店街やまちなかを活気づけるプロジェクトに取り組みました。7つの取り組みは「まち研カフェ+季節のイベント」、「地域通貨『風輪通貨』」、「地域経済に関する調査研究」、「書道とふれあいの会」(以上産大)、「ほんちょうマルシェへの出店」、「グリーンパード」、「廃食用油回収と野菜販売」(以上工科大)です。

(1) まち研カフェ+季節のイベント

昨年度に引き続き、冬季に勉強や休憩のためのカフェスペースを提供するとともに、主に小学生を対象とした「大学生と七夕パーティー」、「大学生とハロウィンパーティー」を開催しました。七夕飾りや七夕メニューづくり、ハロウィンの仮装等を楽しみ、大勢の小学生の熱気で盛り上がりました。また恒例となっているウインターイルミネーションは二大学学生が協力して設置し、今年も冬の商店街を華やかに照らしました。



(2) ほんちょうマルシェへの出店

東本町フォンジェ向かいの路地で5月から10月の第一土曜日に開催されている「ほんちょうマルシェ」へ工科大・まち研として出店しました。子どもの参加の多い8、9月に、その場で簡単に制作できるクラフトワークショップを開催し、多くの親子連れに体験していただきました。



3. 市民向け公開講座

今年度は各大学の専門性を発揮した下記の4回の市民向け公開講座を提供しました。「理想の

「家」づくりワークショップ」(以上工科大)、「まち研ピストロ ワインとチーズの会」、「第3回中国語サロン」、「クラシック・タタタン (U・Iターナー情報プラザで実施)」(以上産大)。ワークショップや茶話会のスタイルで高校生から社会人を対象に実施、参加者には大学の学びを楽しく体験していただきました。



4. 「巻き込み力」で更なる展開を

以上の活動以外にも、学内外の団体等の企画も積極的に受け入れることで、まち研の幅広い活用と稼働率の向上にも繋がりました(毎月10回〜20回以上の拠点活用。最高は10月にのべ27件/月を達成)。柏崎市社会福祉協議会と連携した学習支援事業は長期休業中に計24日間実施、社会人学生と地域の方による地場産野菜販売も7月〜12月初旬まで毎週実施されました。

学生の事業参加数も大きく増加し、二大学計100名以上の学生が各自の興味関心に応じてまち研に関わり、市民の参加状況についても、特に小学生対象のイベントでは50名を超える参加がしばしば見受けられるようになりました。仲間と誘い合ったり、情報を発信したり、参加者とコミュニケーションをとったりといった、学生たちの「巻き込み力」が発揮され、共に地域を盛り上げていこうとする機運が高まっていたことがこれらの成果に繋がったと思います。これからも学生と市民が楽しみながら共に高めあう場を目指して、まち研を大いに活用していきたいと思ひます。